

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人
小笠原 史朗

様

あて名

〒 564-0053
大阪府吹田市江の木町 3 番 1 1 号
第 3 ロンヂェビル

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

11.1.2005

出願人又は代理人
の書類記号 PCT04-179

今後の手続きについては、下記 2 を参照すること。

国際出願番号
PCT/J P 2 0 0 4 / 0 1 3 5 6 6

国際出願日
(日.月.年) 10.09.2004

優先日
(日.月.年) 10.09.2003

国際特許分類 (IPC) Int. Cl⁷ G02B 13/00, G02B 13/18

出願人 (氏名又は名称)
松下電器産業株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第 I 欄 見解の基礎
- ☐ 第 II 欄 優先権
- ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第 V 欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☒ 第 VI 欄 ある種の引用文献
- ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
- ☒ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

20.12.2004

名称及びあて先
日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号 100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)
森 内 正 明

2 V 9 2 2 2

電話番号 03-3581-1101 内線 3269

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された
3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-10	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (I S)	請求の範囲	1-10	有 無
	請求の範囲		
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1-10	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

文献1：JP 2001-75006 A (株式会社エンプラス) 2001.03.23、全文、全図
 文献2：JP 8-234097 A (株式会社コパル) 1996.09.13、全文、全図
 文献3：JP 62-116915 A (キヤノン株式会社) 1987.05.28、全文、全図
 文献4：JP 62-191813 A (松下電器産業株式会社) 1987.08.22、全文、全図

請求の範囲1乃至10について

請求の範囲1乃至10に記載の発明は、上記文献1乃至文献4に対して新規性を有する、また、進歩性を有する。

前記文献1乃至文献4には、請求の範囲1に記載の、撮影レンズのレンズ構成と条件式(1)から(4)を満たしている点は開示も示唆もなく、前記点は当業者といえども容易に導き出せる事項でもない。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書(PCT規則43の2.1及び70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
JP 2004-325713 A 「E, X」(キヤノン株式会社)	18. 11. 2004	24. 04. 2003	
JP 2004-226487 A 「E, X」(セイコーエプソン株式会社)	12. 08. 2004	20. 01. 2003	
JP 2004-240063 A 「E, X」(富士写真光機株式会社)	26. 08. 2004	04. 02. 2003	
JP 2004-4566 A 「E, X」(コニカミノルタホールディングス株式会社)	08. 01. 2004	20. 02. 2003	25. 03. 2002

2. 書面による開示以外の開示(PCT規則43の2.1及び70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)
-----------------	------------------------------	--

第Ⅶ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 1 の記載及び明細書の記載全般にわたって記載している条件式 (4) に関して、前記条件式 (4) の下限値は、正值であるが、上限値は負値であり、上限値より大きな値の下限値としているのは適切でない。